

頑張れ!
ルーキー



rookie FIGHT!!

10

長崎県立農業大学校 東大川のボランティア清掃



学生会長 橋本元徳さん

みんなで農業を学びながら、
この地域の役にも立つことがやりたい。

2月6日土曜日の早朝。雲ひとつない青空の下、吐く息が白くなるほどの冷たい風の中で、たくさんの若者が清掃活動をしている姿を見つけました。軍手にビニール袋、それぞれに火バサミやカマを持って、真っ白に霜がおりた河原に入っていきます。

ここは諫早市小船越町にある長崎県立農業大学校のすぐそばを流れる東大川の下流。農業大学校の学生さんたちが、昨年度からこの川のボランティア清掃活動を続けています。活動の中心となる学生会長の橋本さんにお話をうかがいました。

「清掃活動は朝が早いのでつらいこともあります、川がどんどんきれいになると、自分の気持ちまできれいになるような気がしてとてもうれしいです。」



大平義紀校長

橋本さんはこの学校で2年間しっかり農業を学んだあと、平戸にある実家にもどってイチゴ栽培の家業を継ぐのだそうです。

長崎県立農業大学校では現在97名の学生さんが在学中で、その多くが



学校の敷地内にある飛雲寮でいっしょに生活しています。今日の清掃には職員も含め約50名が参加し、小さなゴミから、さまざまな漂流物や不法投棄された3台の自転車までも回収しました。

「一見きれいに見える川ですが、こうして川に入ってみると意外にゴミがあるんですね。きれいになったら、やはり気持ちがいいです。清掃活動の参加は学生の自由意志なんですが、みんな一生懸命やってくれます。」と大平校長先生。

教務課講師の甲斐先生は「学生たちは県内各地から農業を学びにここに来ていますが、清掃活動は何かこの地域のみなさんの役に立ちたいと思って始めたんです。みんな仲がいいんですよ。この学校で農業のことはもちろん、それ以外のいろんなことも学んで、卒業したらそれぞれの立場で役に立てるような人になってもらいたいですね。」

陽も高くなり、河原の霜が消える頃、清掃を終えたみんなのすがすがしい笑顔が印象的でした。



甲斐毅彦教務課講師

